

12.5 老朽原発このまま廃炉！ 大集会inおおさか

● 集会プログラム

12:00~12:50 オープニングライブ

13:00 開会

このプログラムには、
コロナ連絡票を挟んでいます。
落とさないように！

- ◆ 司会あいさつ 河住 和美
- ◆ 主催者あいさつ 中寫 哲演（原子力発電に反対する福井県民会議）
- ◆ 美浜3号機運転差止仮処分裁判をめぐって 井戸 謙一 弁護士
- ◆ 名古屋地裁の老朽原発廃炉訴訟 草地 妙子（老朽原発 40 年廃炉訴訟市民の会）
- 老朽原発の地元から
 - ◇ 福井県/若狭町 石地 優（美浜原発 15km 圏内在住）
 - ◇ 福井県/小浜市 世戸 玉枝（原発設置反対小浜市民の会）
 - ◇ 東海第二原発の地元から 山田 和秋（とめよう！東海第二原発首都圏連絡会）
- ◆ ポテッカーを掲げるアクション
- ◆ カンパアピール
- ◆ 原発事故避難者から 原発賠償関西訴訟原告
- 全国から
 - ◇ 首都圏ほか
- 関西の市民団体から
 - ◇ 滋賀 / 脱原発市民ウォーク in しが近江八幡 2021
 - ◇ 京都 / 使い捨て時代を考える会
 - ◇ 大阪 / ストップ・ザ・もんじゅ
 - ◇ 大阪 / 原発ゼロの会 大阪
 - ◇ 兵庫 / 原発の危険性を考える宝塚の会
 - ◇ 奈良 / 原発ゼロ・被災者支援奈良の集い実行委員会
- ◆ 老朽原発このまま廃炉！キャンペーンの報告
- 労働組合から
 - ◇ フォーラム平和・人権・環境
 - ◇ 全国労働組合総連合（全労連）近畿ブロック
 - ◇ おおさかユニオンネットワーク
- ◆ 『集会アピール』提案と採択 木原壯林（老朽原発うごかすな！実行委員会）
- ◆ デモの説明

14:30 閉会  デモのスタート

● 全国で脱原発を闘う仲間からの 連帯メッセージ

連帯メッセージ

北海道 後志（しりべし）原発とエネルギーを考える会 佐藤 英行

カーボンニュートラル ファッションともいえる掛け声に原発の再稼働の声が高まっている。北海道では核のゴミ最終処分場の攻撃を受けている。最終処分場建設に向けた文献調査が原発のトイレが確定されたがごとくと原子カムラの輩が息まいている。美浜原発と同じ加圧水型である泊原発は、プルサーマルを計画している 3 号機が原子力規制委員会の審査中であるが、カーボンニュートラル ファッションで原発構内の断層を活断層ではないとの北海道電力の主張を受け入れた。これからの課題は海底活断層の長さの問題、基準地震動、基準津波により、防潮堤のやり直し、防波堤の強化工事、加圧水型でも行われるフィルターベント、特重施設、逃げ切れない原子力災害避難計画等々となる。

北海道寿都（すつつ）町、神恵内（かもえない）村に仕掛けられた特定放射性廃棄物最終処分場建設に向けた攻撃に対し、寿都町長選には敗れはしたものの、その結果と逆に、核ゴミ反対の声は高まってきてい

る。寿都町長のあまりに傲慢なやり方に近隣町村は異議を唱え、核ゴミ受け入れ拒否条例を制定している。また、文献調査期間 2 年で近隣町村も含めて 20 億円の交付金も拒否している。北海道には特定放射性廃棄物を受け入れがたい内容の条例があり、北海道も交付金を受け取らない決定をしている。金で自治体を陥れる政府に対しても抗議の声が上がっている。

寿都町では文献調査から概要調査に進むときに、その可否を住民投票で決める（尊重する）条例があり、早ければ来秋にでも実施される。私たちは圧倒的な拒否の投票を勝ち取り、政府、原子カムラに鉄槌をくわえるよう準備を整えている。すべての原発を止め核ゴミの処分について議論すべきである。

そのためにも、老朽原発をそのまま廃炉に追い込み、すべての原発を廃炉にしなければならない。

ともに私たちの未来に向かって闘いましょう。

連帯のメッセージ

核の中間貯蔵はいらない！下北の会 代表 野坂 庸子

関電が使用済み核燃料をむつ中間貯蔵施設へ搬入することを目論んでいるとの報道が断続的に続く中、昨年末には電事連が経産省を伴い、むつ施設の全国電力会社の供用化案を本県、当市へ提案すべく来訪しました。

これに対して地元では「断じて認められ

ない」「何の権限があって協定当事者でもない電事連、経産省が口を挟むのか」との声が、私たち反対住民はもとより、この施設を容認している人々からも大きく上がっています。市当局としても今日まで市民へ説明してきたことが覆されることへの懸念から現時点ではむつ市長を先頭にこうした

提案の存在自体を認めていない状況にあります。

さて、この施設は本来、操業開始時期を本年度中としていましたが、原子力規制委員会の設計工事計画認可申請審査が完了せず、当然これに基づく工事も進んでおらず、8度目の操業開始時期延期が表明され、2023年度以降となっています。この間の規制委員会の審査状況では事業者側の対応状況があまりにも稚拙であり、委員会からは事業遂行能力を疑われるような状況であることが同委員会のホームページ上の会議動画でも伺うことができます。私たちは断じてこ

うした委員会サイドから無能力とさえ揶揄されるような事業体に地元の未来を託すわけには参りません。

現在、市当局は本年3月に条例化した「核燃料新税」の課税方式や税率などで事業者との交渉を続けている状況です。税の性格や税率などで交渉が難航しています。こうした交渉の打開策として共用化問題を取引材料とすることなども想定されます。私たちはこうした取引が断じて行われぬよう厳しく監視しながら全国の仲間と共に闘いを強め、電事連、経産省にこの共用化計画を断念させるため全力を尽くす決意です。

連帯メッセージ

なくそう原発・核燃、あおもりネットワーク 事務局次長 中道 雅史

1993年に着工した核燃サイクル施設のひとつ、六ヶ所村の使用済み核燃料再処理工場はトラブルが続き25回も完工を延期している。日本原燃増田尚宏社長（東電出身）は「工程をキープするのは非常に難しい」と悲鳴を上げつつも、2022年度上期完工という目標を「変える気はない」とうそぶく。原子力規制委員会更田豊志委員長でさえ「普通に考えて難しい」と言っているにもかかわらずだ。

この秋の自民党総裁選で青森は揺れた。河野太郎候補が「核燃料サイクルは手じまいするべきだ」とかねてからの持論を掲げてきたからだ。そして、県民は呆れもした。岸田文雄候補が「(サイクルを)中止すればプルトニウムが積み上がる」という無知蒙昧な発言をしてみせたので。結果、驚きもあった。「サイクル中止」の河野候補が、青森県内の自民党員・党友の票の37%も獲得した点に。まさかね。何か変化が起きつつあるのかもしれない。

10月に閣議決定されたエネルギー基本計画。日本原燃の無様な現状を認めつつも、「再処理やプルスーマル計画を推進する」

と従来路線を踏襲する。展望はなし。宮下宗一郎むつ市長は様々せつつくが、むつ使用済み核燃料中間貯蔵施設の根拠となる「第2再処理工場」について一言もない。野崎尚文大間町長は「サイクルは大間(原発)なしで進まない。早く進めてほしい」と嘆くのみ。

11月8日、新任の萩生田光一経産相が、政策の堅持を説明しに青森にすっ飛んできた。異例のこと。河野の「見直し論」、岸田の誤った理解で、政権の「本気度」が疑われる事態になったからだそうだ。これに対し三村申吾知事は「サイクルは国民全体の理解と信頼を得ることが重要」、戸田衛六ヶ所村長は「国民が恩恵を享受しているにもかかわらずエネルギーに関する議論は乏しい。無関心、無責任に見受けられる」と発言した。それについて青森の地元紙はこう述べている。「これらは、サイクルが立地地域だけの問題として矮小化されているのでは一との強い懸念の裏返しととれる」

そう、このことは推進派のみならず反対派にも当てはまる。反／脱原発派は、サイ

クルについて、青森の現状についてもっともっと注目して欲しいと僕は考える。青森と全国の仲間の深いふかい連帯を勝ち取る

ことで、全原発廃炉・核燃サイクル廃止に追い込むことができる。

原発はやめる時機だ！

原発いらない福島の人たち 橋本あき

「ダロウ運転はやめよう！」と車の運転の標語もあるように原発の運転にも当てはめたい。そして「全ての原発はもう止める」とつながりたい。

東電福島原発事故は経営者が津波や地震対策をケチったことから起きた事故だった。大丈夫ダロウ、間違いないダロウと、無責任体質を続けてきた結果だった。2011年10月『原発いらない福島の人たち』は経産省前へ抗議の座り込みをした。その仲間が今年、2人相次いで病気で亡くなった。原発が未だに止められずに、廃炉を見届けることなく逝ったかと思うと悔しくて悲し過ぎる。

柏崎でのIDカード不正利用「見つからないダロウ」。関電の金品受領「原発マネーは旨いダロウ」。東電フクイチ「汚染水放出は大丈夫ダロウ」。懲りない原発事業者、どこにも当てはまる「被ばくは当たり前ダロウ」等々安全意識の低さから原発事故が起きる。その結果、加害者が被害者を貶（おとし）める、責任をなすりつけるような裁判が多くなり時間だけが過ぎていく。私た

ち一般市民は何も悪いことはしていないし、そこにたまたま住んでいただけなのに酷（むご）い裁判が数多い。

所詮、人間の驕りで作られた原発。人間の手で作られた進化の中で一番厄介なのは原発の放射性物質だと思う。フクイチの鋼鉄製の原子炉圧力容器は5重の壁で放射性物質を安全に閉じ込めておけず脆くも壊れた。制御棒は中性子を吸収しやすい物質で作られており炉心の出力をコントロールするというが、何万年も放射能を発し続けていく。これだけは「ダロウ」ではなく確実なのだ。それに輪をかけて食物危機という脅しで遺伝子組み換え食品が多く出回っている。一部の悪企業の儲けのために本来の種子さえ滅ぼされそうとしている。どれもこれも進化と言いつつ人類破滅、地球破滅に向かっているとしか思えない。海と山を愛さなくていいから、どうぞこれ以上汚さず壊さないでほしい。今こそ、原発を無くす方向へ舵を取り、本来の生態を取り戻す時機に思う。

大阪12.5大集会へのメッセージ

放射能ゴミ焼却を考えるふくしま連絡会 和田 央子

原発のない世界の実現を目指す皆様の絶え間ないご尽力に心より敬意を表します。

福島では、経産省および復興庁の主導で復興事業「福島イノベーション・コースト構想」が進められています。その内容は①原発事故収束（廃炉）の研究・人材育成

②ロボット・AI ③水素エネルギー・再エネ ④放射線医療・創薬 ⑤航空宇宙 ⑥ICT（情報通信技術）農林漁業、の6つの分野における企業を集め、産業拠点を構築するものです。これらは原発事故を経験した「福島の優位性を発揮できる分野」とさ

れています。具体例として、がん治療などに使う放射性医薬品に関する研究や、ゲノム編集技術を活用した次世代型生物工場の開発、国際原子力機関（IAEA）などと連携した原子力研究者の育成などが上がっています。

またこれらを統合する司令塔として「国際教育研究拠点」構想が掲げられ、まもなくその全容が公開される予定です。研究内容はイノベ構想の5分野に限定されており、共通するのは原子力の活用です。注意すべきはこれらが軍事転用技術でもあることです。

調べたところ、除染から始まり廃棄物処理や中間貯蔵施設、そしてイノベ構想に至るまで、東京電力グループと原発メーカー、ゼネコンなど同じ大企業が受注し、何重もの利益を上げる仕組みになっていることが

分かりました。原発メーカーは軍事企業でもありますから、要は復興事業を装いながらその実態は原子力と防衛体制の強化・拡大に他ならないのではないのでしょうか。

イノベーション構想のモデルは原爆開発のマンハッタンプロジェクトを実行したハンフォードであり、核にまみれたハンフォード地帯の除染を行う企業を集めることで人口と経済が飛躍的に拡大した当地を成功事例として福島浜通りに取り入れようとするものです。日本に唯一落とされた米国の原爆開発の地を、福島原発事故後の復興モデルにするとはなんとという悲劇でしょうか。

「創造的復興」や「技術立国の復活」など威勢の良いフレーズに騙されず、その嘘を暴いていくために、皆様とともに歩みを進めていきます。

女川原発を動かしてはならない3つ以上の理由

みやぎ脱原発・風の会 舘脇 章宏

① 11月8日、女川原発2号機再稼働差止を求めた訴訟の第1回口頭弁論が行われた。避難計画に絞った差止訴訟は全国で初めてだ。訴状では、事故で避難する際、放射性物質の付着を確認する検査所や避難先を決める自治体の受付ステーションなどで大規模な交通渋滞が起きると指摘。県の調査でもUPZを抜け出すのになんと3日以上もかかるという結果がでているのだ。

② 7月12日、1号機廃棄物処理建屋において、硫化水素がタンクに接続される配管を通じて2号機の制御建屋内に流れ込み、協力企業作業員7名が病院に搬送されるという労災重大事故が発生した。この問題点は2つ。一つは、2号機増設時にランドリドレン処理系を1号機と「共用」したためであり、その解消が必須だということ。もう一つは規制委の『有毒ガス防護に係る影響評価ガイド』の想定に重大な抜け落ちが

あることだ。この両方を改善し、再度設置許可適合性審査を行ってからでないと女川原発を動かしてはならない

③ なんとといっても女川原発は東日本大震災震源地に最も近い原発であり、大きな被害を受けた。またこれまでも3度も基準地震動を上回る地震に見まわれている。また、福島原発と同じBWR（沸騰水型原子炉）のマーク1であり、格納容器が小さいことからいったん事故がおきればその進行を防ぐことが困難といわれる。そのような問題に加え、なによりも福島の隣県である宮城県民は放射性汚染廃棄物の問題も抱え、再稼働に反対の世論が6割以上なのだ。にもかかわらず再稼働に同意したのが村井知事である。10月31日の知事選で「再稼働反対」を掲げた長純一さんが直前の立候補にもかかわらず35%の得票を得て健闘したのも、村井知事の「独断専行」への批判が高まっ

ているからに他ならない。

東北電力は 2 号機の安全対策工事完了を 2023 年 3 月としているが、その実現性は不

透明である。今後もあらゆる手段で再稼働を止める闘いを進めていく。

東海第二原発の現地から

東海村議 阿部 功志

大集会にお集まりの皆さま、ご苦勞様です。コロナも収まってきて、集まることができてよかったですね。

この場をお借りして、私から茨城県東海村の状況をお伝えします。

43 歳の東海第二原発、この燃料装荷が来年初に見込まれる中、「早く再稼働してくれ」という一部村民の声がにわかに大きくなってきました。実効性のある広域避難計画が策定できる見通しなどまったく立っていないにもかかわらず、「完璧なものなどできないのだから、ひとまず策定できたことにして先に進め」というわけです。

いま、村の商工会や業者から請願が 3 つ出されています。速やかに避難計画を作って早く再稼働を、というものです。委員会で請願者に質問をしても、「分からない」「それ以上話はできない」などの答えばかり。大事なものは「村の活性化」だそうで、原発の反倫理性や危険性や避難弱者のことは考

えているのか不明です。

また、日本原電は、特重施設の申請さえ全然通ってもいないのに、最近、東海村内各戸を回って村民の説得活動をしました。原電が言うには、村民はおおむね好意的な反応、だと。その配付資料には「原発はコストが安い」と、事実と反することを載せ、村民にウソを言ってはいけないと言うと「私たちはこう考えているから」と開き直ります。

衆院選で自公維が勝ち、国民民主党、立憲民主党を含めて改憲に向けた勢いが増していますが、原発も憲法も共通するのは「人権の問題」です。これから、政治権力とその取り巻きたちによる人権抑圧が加速していくでしょう。それを支持する人たちが多く、という問題が何より深刻ですね。皆さん、気を引き締めて闘っていきましょう。

以上、連帯のご挨拶といたします。

12.5「老朽原発このまま廃炉！」大阪うつぼ公園大集会に 結集された皆さんに、熱烈なる連帯のあいさつをお送りします！

柏崎刈羽原発絶対反対地元住民有志 代表・近藤 容人、高田 勝広

私たちは新潟県刈羽村と柏崎市の住民です。私たちは柏崎刈羽原発（7 基 820 万 kW）に絶対反対です。

3・11 福島原発事故は、東電 HD が起こした歴史的な大事件ですが、デブリの後始末、汚染水、全 10 基の廃炉などなど、超難問が手付かずのままです。したがって、東電は、これから何十年かかろうと国民の納得が行

くまで解決してから、柏崎刈羽原発の再稼働の話をするのが筋です。ところが、国と東電は追い詰められて、昨秋から一体となって柏崎刈羽原発 7 号機の再稼働を画策していました。しかし、ID カードの不正使用、核物質防護設備の機能喪失などの大失態が大量に白日の下に暴かれ、7 号機の再稼働は 4 月 14 日をもって、当面不可能となりま

した。

東電は、この秋の報告の中で、原子力部門の社員 3500 人を調査して、「福島第 1、第 2 と比べて、柏崎刈羽では核物質防護組織における核セキュリティーに著しい劣化があった」と述べています。この期に及んで、何たるありさま、問題外です。また、6 号機の杭（直径 1.8 m、深さ 12 m）が大きく破損していたと、しぶしぶ公表しました。これは、13 年前の中越沖刈羽地震（マグニチュード 6.8、最大震度 7、深さ 17km、直下型）で出来たことは明白です。隠蔽し、ほったらかしていたのです。1～7 号機の全ての杭を徹底的に、直ちに調査すべきで

す。

パンドラの箱は空けられ、もはや東電の存続は絶望です。箱の底には希望のかけらもありませんでした。核兵器はもとより、「平和利用」をも含め、原発等と人類は共存できません。我々地元住民は殺されます。

柏崎刈羽では、約 50 年の長期間、大小さまざまな組織、団体が反対運動を展開、新潟県民を巻き込んだ幅広い闘争を繰り広げてきました。ついに東電をここまで追いこんだのは、こうした闘争の成果で、誇りにするところです。

我々も、微力ながら、全力で闘います。連帯し、共に闘いましょう！

12.5 「老朽原発このまま廃炉！大集会inおおさか」への 連帯メッセージ

さよなら原発・ぎふ 代表 伊藤 久司

私たちは、2011 年 6 月 11 日から、3 ヶ月に一度「さよなら原発パレード in ぎふ」を続けている「さよなら原発・ぎふ」です。12.5 「老朽原発このまま廃炉！大集会 in おおさか」にご参加の皆さまへ、熱い連帯のメッセージを送ります。

岐阜県は、年間を通じ吹く北西の風で、もし若狭の原発に大事故があれば、確実に被害を受ける地域です。しかし、関西電力の電力供給は受けていないので、原発再稼働のことを含め、関西電力に関する報道はほとんどありません。

2012 年 3 月、私たちは、美浜原発の前からタグをつけた風船 1000 個を飛ばす実験をしました。1 割の 100 個が拾われ、その 84% は岐阜県内でした。

同じ年の 9 月、岐阜県は「敦賀原発事故想定時の放射性物質拡散シミュレーション結果」を公表しました。仮に敦賀原発（注：美浜原発に近い）から福島第 1 原発に匹敵する放射性物質が放出された場合を想定

した試算です。最悪の気象条件では、大垣市を含む西濃地域住民の 9 割以上、そして県庁所在地・岐阜市とその周辺住民の過半数が、20 mSv ～ 100 mSv という汚染を被る、大垣市の中心部では年間 110 mSv の高い空間線量となるという衝撃的な結果でした。しかし、この事実を県民の多くは知りません。具体的な住民避難計画もありません。

岐阜は、もし若狭の原発に大事故が起これば、大変な汚染に曝される「被害地元」です。事故のリスクが格段に高い老朽原発の再稼働は、絶対に容認できません。

私たちは、岐阜の地から、「老朽原発うごかすな！核と人類は共存できない！ヒバク・ゼロの未来を！」の声を大きく上げ続けていきます。

連帯メッセージ

浜岡原発を考える静岡ネットワーク 代表 鈴木 卓馬

内閣が替わったといっても、自公政権の原発に対する政策が変わるわけではない。自民党の政調会長に高市がなったということはさらに原発推進が強力に押し進められてくるのではないか。総裁選挙で高市は、誰に吹き込まれたのか判らないが「核融合」まで言及している。一方福島事故での被災者に対する棄民政策も押し進められよう。

国民の原発への不安感は決して軽いものではなく、たとえ自公政権が地球温暖化問題を前面に押し出したとしても原発の増設は困難であることは承知している政府は、老朽原発であろうとなんであろうと、既存の原発のフル稼働をウソとカネのバラマキで進めてくるであろう。

このような情勢下での、しかもコロナ禍が治まりきれない中での「12.5 老朽原発このまま廃炉！大集会 in おおさか」を開催することは非常に意義あることであり、全

国の原発の廃炉を目指す私たちを勇気づけるものです。とりわけ「ヒトリデモ」をはじめとするユニークな多くの取組みは、多くの市民を脱原発へ誘うものです。

南海トラフ巨大地震の震源域も真上に存在する「浜岡原発」は依然として世界で最も危険な存在です。静岡県知事は、「核のゴミ」に言及して再稼働は認めないと度々言明しています。現職自民党の県会議員が9月に脱原発市民運動の集会で「浜岡廃炉」の講演を行っています。その中で「隠れ反原発に自民党県議」が思いのほか多数いることが判明しました。規制委員会が「合格証」を出しても再稼働は認めないと言明する市長（藤枝市）もいます。浜岡再稼働へ向けての具体的な動きは今のところありません。私たちの反・脱原発運動は、多くの見えないところでの支持を確実に受けています。

目的達成のためともに頑張りましょう。

敦賀原発反対現地から

山本 貴美子（きよこ）

「12.5 老朽原発このまま廃炉！大集会 in おおさか」お集まりのみなさん、たいへんご苦労さまです。

敦賀市には、日本原子力発電の敦賀1号機（BWR＝沸騰水型）、2号機（PWR＝加圧水型）、日本原子力研究開発機構の「ふげん」（新型転換炉）と「もんじゅ」（高速増殖炉）の4基の原発があります。

敦賀2号機以外の3基は廃炉決定され、現在、廃炉作業が行われています。廃炉になった要因は、「ふげん」は採算がとれないこと、「もんじゅ」は度重なる事故、故障により安全に運転できないこと、敦賀1号機は老朽化によるものですが、一番は、

原発の危険に反対する世論と、私たちの先輩、仲間のみなさんの粘り強い運動があったからだと思います。

1993年、敦賀3、4号機（APWR＝改良型加圧水型）の増設計画に対して、私たちは、原発増設の是非を問う住民投票条例を求める直接請求の署名運動を行いました。限られた期間の中で、有権者の四分の一以上の12000筆超の署名が集まりました。ところが、敦賀市議会で否決されたため、その後の市長選に直接請求運動の代表が立候補しました。市長選挙には現職含め3人が立候補し、残念ながら代表は当選できませんでしたが、原発増設推進であった候補者

が「増設白紙」を公約し初当選しました。その後、市長は白紙から増設に転じましたが、現在も原発建設は止まったままです。

また、敦賀 2 号機は、敷地内に浦底断層があります。浦底断層は、柳ヶ瀬山断層帯などと連動して動くとき M 8.2 の直下型の地震が起きる可能性が指摘されています。更に 2 号機の直下には破砕帯が多数あり、活断層の存在も指摘されています。ところが、日本原電は再稼働させるべく安全審査を請求し、規制委員会から地質データの改ざんなど度重なる指摘を受け、審査すらされて

いない状況です。

さらに、文科省は「もんじゅ」を廃炉にする代わりに、「もんじゅ」の敷地内に新しい研究炉を作る計画です。

私たちは、原発事故から住民を守るためにも、核のゴミを増やさないためにも、敦賀 2 号機の再稼働や 3、4 号機の増設、新型炉の建設を許さない運動を強めていきたいと思えます。また、関電美浜は敦賀半島にあります。廃炉を求めてみなさんと一緒に闘っていきたく思います。

みなさん、共にごがんばりましょう！

12.5連帯のメッセージ

美浜町議会議員 河本 猛

美浜町議会議員の河本猛です。

美浜原発は、活断層に囲まれた敦賀半島に立地しています。立地不適で危険な場所に原発が存在しています。

美浜原発は、1・2号機の廃炉とともに、3号機も廃炉にして、すべての原発をなくすべきです。

そして、「原発ゼロ」の社会を実現し、産業の転換と新たな産業の構築で、地域の活性化を図るべきです。

美浜町は、関電の原子力事業本部がある原発城下町です。現在、原発を受け入れてから半世紀がたちますが、原発頼りで他の産業が育たず、高齢化と人口減少が止まりません。勤労世代は減少し、農林水産業のなり手不足など、町は衰退の一途をたどっています。

今年 3 月の町の予算では、関西電力の固定資産税が、償却資産で約 25 億 4900 万円、土地分で約 2800 万円、建物分で約 1 億 3300 万円の見込であることがわかりました。

町税収入のうち、関西電力分が約 72 パーセントを占めています。(当然、町内の原発関連企業を含めるともっと比率が上がります。)

これは、1650 億円かけた美浜原発 3 号機の安全対策工事が完了したことにより、資産価値が上がったことが要因です。来年、テロ対策施設が完成すれば、さらに税収は増えるでしょう。

町行政の財源は、原発利益共同体による異常な一極集中に依存しています。しかし、一時的に財源が豊かになっても、その分、地方交付税は減らされているので、大きなメリットはありません。

それより問題なのは、町税収入を原発利益共同体に依存していることで、行政が町民の方を向かない体質になり、町民への行政サービスが向上しないデメリットが生まれていることです。

自治体に財源があっても、町民が豊かさを感じない町になっているのが現実です。

ただでさえ、老朽原発による潜在的な危険の中で暮らしているというデメリットがあるのに、無駄なハコモノ建設で町民は苦しめられています。

6 月 23 日に再稼働した老朽原発「美浜原発 3 号機」は、10 月 23 日に停止しました。40 年超運転の既成事実が欲しいだけの実験、関電の利益追求のためだけの意味のない運

転期間でした。そこに、「安価な電気を利用者（国民）に届ける」という精神はなく、なりふり構わない国策民営の金儲けです。

原発は二度と稼働させてはいけません。しかも、原発に依存した町の「地元同意」で原発の再稼働が進むような危険極まりないシステムはやめるべきです。

麻薬患者に麻薬を投与して武器を持たせたら、麻薬患者は、より麻薬を求めて、なりふり構わず誰かを攻撃するようになります。そうすると周辺のコミュニティはどうなるのでしょうか？

麻薬患者には自覚できませんが、美浜町の「地元同意」は、静穏に暮らす国民に、刃（やいば）を突き立てているのです。さらには、原発の新增設・建て替えを国に要

望し、なりふり構わず刀（かたな）を振り回しています。

原発は、国が意図的に麻薬患者に麻薬を投与して武器を持たせているのと同じです。私たちは、原発依存症患者を救うためにも原発をなくさなくてはなりません。

反原発、原発ゼロを求めるたたかいは、すべての原発がなくなるまで終わりません。

このたたかいは、国民の命を守り、少数の原発立地自治体・原発依存症患者を救う大義あるたたかいだと思っています。

日本社会の恒久的な安全、国民の静穏な暮らしを保障するためにも、私たちの連帯・つながりの輪を広げ、政治にも大きな影響を与える市民運動に発展させていきましょう。

連帯メッセージ

おおい町 宮崎 宗真

10月30日に行われた県主催の美浜原発事故を想定した防災訓練では、避難先に指定されているおおい町内数か所の施設に、美浜町民が避難する訓練が行われました。コロナ禍という事で、参加人数はかなり絞られ、原子力防災というよりはコロナ対応に見える服装の上、随所で被ばく影響を軽く見せるように工夫され緊張感のない訓練でした。最終的に名田庄体育館に移動した美浜町UPZ（概ね30km圏）内住民の前で、訓練の総括として壇上に立った杉本知事・美浜町・おおい町の各町長は、カーボンニュートラルの為には原発は不可欠であると揃って述べ、住民へ理解を求めていました。訓練の様子は、町のCATVや広報紙で、大きく取り上げられていましたが、水戸地裁での判決を重く受け止めるのであれば、全く実効性のない避難計画を少しでも改善するように、国や県に強く要望してほしいものです。

「きのこと星の町ネットワーク」という

女性団体について以前も触れましたが、今年も地層処分について（今回は地下水についての研究者）の講演会を10月10日に開催しています。3年間NUMO（原子力発電環境整備機構）の学習プロジェクトに参加し、今春さらに3年間延長するという熱心さには驚かされます。年1回ほどのNUMO関連の講演会開催のほか、理事会員10数名は、頻繁にNUMO職員からレクチャーを受け、六ヶ所村や幌延町の視察や、電力消費地の女性団体（エレの会）や六ヶ所村の女性団体、寿都町の団体とも交流をしていると聞きます。福島事故以降、原子力の存在意義が問われる中、それぞれの原子力関連の立地地は、エネルギーの町として生きている自負を取り戻そうと必死に学び続けています。その不安や葛藤をうまく利用し、原子力村は、既に破綻している核燃料サイクルを存続させ、原発の再稼働に疑問を持たせないようにと洗脳しているように思えてなりません。彼女らは、学んだ知識をチ

ラン等で広め、教職員を講演会に招くなど、子供の教育にも言及し始めています。さらに言えば、廃炉後の財政的不安に付け込み、最終処分場に立地地が手を挙げるのを静かに待っているのではと考えるのは下種の勘繰りなのでしょうか。

現に、おおい町議会や原子力平和利用協議会は、県とは異なり中間貯蔵施設受け入れを考え始めています。未来に禍根を残さないよう、慎重意見にも耳を傾けてほしい。反原発の運動とともに、そんな立地の不安に的確なアドバイスが出せる体制が待たれます。

【10月19日福井県原子力発電所所在地市町協議会（立地協）は、関西経済連合会とオンラインで意見交換をした。第6次エネルギー基本計画案で原発の新增設やリブレースの記載がないことなどに「残念だ」「国民理解が必要だ」の声が出たその会議冒頭で、立地協の中塚寛会長（おおい町長）は「エネルギー源の好き嫌いではなく、地球環境を守る現実の問題として（原子力は）即戦力の重要かつ不可欠な電源だ」とあいさつした】と新聞で報じられた。

本当に地球環境を守るのであれば、一日も早く原発に「サヨナラ」してほしい！！

連帯メッセージ

高浜町 東山 幸弘

12.5 大阪集会にお集まりの皆さん、高浜町に住んでいます東山幸弘です。

都合により参加出来ないため、地元高浜からのメッセージを送らせていただきます。

40年超の老朽原発高浜1、2号の再稼働をめぐって昨年秋から経産省をはじめとする推進側から1日でもうごかしたいと凄まじい攻勢がありましたが、3.20高浜現地全国集会等多彩な取り組みで、老朽原発高浜1、2号の再稼働を阻止することが出来ました。

奮闘された皆様に地元としてお礼申し上げます。

しかし、原発推進勢力は国のエネルギー政策を盾に40年超老朽原発すべてをうごかさずため、そして、関電は利益を上げるためだけの尖兵として、危険な老朽原発の運転に突っ走っています。

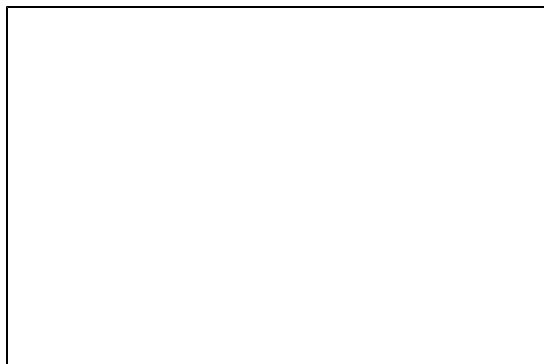
うごかせばうごかさずほど溜まり続ける使用済み核燃料はプールに満杯です。

高浜3号、4号も36年を超えた老朽原発です。40年と決められた運転期間もあと3年です。美浜3号、高浜1、2号の再稼働を

阻止し、40年期限の高浜3、4号の運転を許さなければ、残るは大飯3、4号だけとなり「原発銀座」と言われた若狭は大きく変わる転機になります。

高浜町元助役から関電幹部への原発マネー還流はこれまで噂された「原発にまつわる闇の金」の一端を明らかにしました。と同時にこれは高浜町の名を全国に知らせたことになり高浜町民みんなが憂えています。原発のない明るい未来を切り開くチャンスです。

立地地元と消費地元、手を携えて頑張ります。がんばりましょう。



島根原発2号機の再稼働？ 未来は自分で選びたい！ 私たちは住民投票を求める

さよなら島根原発ネットワーク 芦原 康江

「老朽原発そのまま廃炉！大集会 in おおさか」にお集まりの皆様へ、改めてすべての原発廃炉をめざし、メッセージを送ります。

島根原発2号機の再稼働については、住民説明会がほぼ終了しました。残るは、議会における各会派の意見表明と、各自自治体首長による判断が出され、鳥取県による再稼働是非の回答が出されると、島根県が最終的な再稼働是非の判断を出すこととなります。

住民説明会では、市民から様々な疑問の声、そして現在の「避難計画」は本当に実効性があるのかといった不信の声が数多く出されていました。答える国側は何を聞かれて説明内容を繰り返すだけで、ほとんど答えにもなっていません。何よりも、「再稼働しても大丈夫だ」という説明だけを聞かされる説明会では、とても公正な手続きとは言えません。行政の側は、それを「市民の意見を聞いた」ことにするのです。

原発事故という巨大なリスクをゼロにす

ることができない今、私達は、島根原発2号機を再稼働させるか否かの判断は、行政や議会のみならず、一人一人の市民にとっても大きな責任が問われることだと考えます。現状は、市民に原発再稼働のデメリット情報を与えず、まともに市民の意見を聞きもせず、市長による「総合的」と言う、どうとでもごまかすことができる判断が出されることが予想されます。

私たち市民の側は、市民が意思表示ができ、その声が的確に市長判断に反映されるよう、住民投票を求めています。すでに、鳥取県米子市と境港市、島根県松江市の3つの自治体で市民による住民投票条例直接請求署名活動が始まっています。1月からは、島根県出雲市の市民も署名活動を開始する予定となっています。周辺自治体6市の内3市での署名活動の展開は、市民の間でも関心を高めつつあります。

圧倒的な数の署名を集め、住民投票を必ず実現させることで、町の未来に対する大人の責任を果たしたいと思います。

連帯メッセージ

老朽原発うごかすな！新規原発作るな！ 核の被害の無い世界を共に作ろう！

上関原発を建てさせない山口県民連絡会

12.5「老朽原発そのまま廃炉！大集会 in おおさか」に結集された皆様へ、心からの激励と連帯の気持ちを送ります。

今年5月、中国電力（以下、中電）は3度目の海上ボーリング調査の許可申請を山口県に提出しました。山口県は、多くの県民の不許可を求める声にも拘わらず、3年

続けてこれを許可しました。許可期間は7月7日～10月6日の3か月間でしたが、中電は測量のためと6月29日には上関原発建設を目論む田ノ浦に現れました。祝島漁業者は、先祖代々この海域で漁をすることで生計を立てています。中電からの漁業補償金の受け取りも拒否し続けています。祝島

の漁船は、ただ静かにそこで漁をしながら、ボーリング調査は受け入れられない、中電の言うことは認められないと訴えました。また、田ノ浦の浜には、上関町民や県内外から上関原発に反対する人々がたくさん集まり、自然観察や浜の掃除などをしながら海上の様子を見守りつづけました。その結果、今回も中電はボーリング調査をすることはできませんでした。これからも、中電の動きを注視しながら、新規原発としてある上関原発を建てさせないために、私たちは団結を強めて闘います。

また、希少な生物の宝庫である「奇跡の海」とも言うべき田ノ浦と上関の自然を未来の子ども達のために残していきたいと思えます。

岸田自公政権は脱炭素を口実としながら、第6次エネルギー基本計画において2030年

原発比率を20～22%として原子力政策の維持を図り、原発を再稼働させ、新規原発建設への道を開こうとしています。しかも中国電力の清水社長は原発を「確立した脱炭素電源」と言いなし上関原発建設を推進しようとしています。断じて許せません。

コロナ禍の中、老朽原発うごかすな！実行委員会の皆様が、老朽原発廃炉に向けて「やれることは何でもやろう！」とスタンディングアピールやチラシ配布、集会やデモ、リレーデモ、ヒトリデモを全国に呼び掛け、福井現地や関西で日々地道に活動されながら、原発のない社会を実現しようとしていることに感銘し、共感します。

最後に、12.5「老朽原発このまま廃炉！大集会 in おおさか」の大成功を願って、連帯メッセージとします。共に、原発ゼロの世界の実現に向けて、頑張りましょう！

連帯メッセージ

伊方から原発をなくす会 名出 真一

老朽原発このまま廃炉！大集会に結集された皆さん。伊方からメッセージを送らせていただきます。

ご存知のように四国電力は二度に渡る運転差し止め仮処分決定にも関わらず、立ち止まって考えるということせず、再稼働ありき、自社の金儲け優先の反社会的企業姿勢を続けています。10月23日に伊方原発3号機の再稼働を目論んでいましたが、反社会的企業姿勢を証明するような事件。伊方原発事故対応要員が宿直時にたびたび抜け出していたという事実が発覚しました。事故に対応すべき人員が不足した状態で原発が運転されていたのです。このため、23日の再稼働を延期せざるを得なくなりました。個人の責任も重大ですが、原発内の人員が無断で抜け出している誰も気がつかないような管理体制で原発が運転されていることこそが重大な問題です。東電の柏崎

刈羽原発では作業員が他人のセキュリティで侵入していたことが発覚して大問題になっています。私たちはこの伊方原発での事故対応要員が抜け出していたことも、柏崎刈羽と同じ問題だと考えます。四国電力は電源喪失事故、制御棒を間違っ引き抜くなどの考えられないような事故を繰り返しています。こんな危険な綱渡り状態であるにも関わらず、四国電力も自治体も「想定外はある」ということを認めています。一度過酷事故が起きれば止めることができないうことを福島第1原発事故で私たちの目の当たりにしました。「想定外はある」と認めながら、指摘されている危険性は全く「想定」しようとしな。危険性を矮小化し、自らの責任回避に終始する原子力に群がる亡者たちに私たちは絶対に負けることはできません。

関西で闘われている「老朽原発動かす

な！」の闘いは、この負けることのできな
い闘いの先頭にあると確信しています。

私達が振り上げた拳は未来を掴む。私達
がデモ行進した先には未来がある。

全ての原発廃炉のために共に闘うことを
誓い、連帯のメッセージとさせていただきます。

連帯メッセージ

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会 代表 石丸 初美

2009年12月2日、玄海3号機で日本最
初のプルサーマルが強行されたことで、翌
年8月「MOX燃料使用差止」で提訴。11
年間の4つの裁判闘争です。奇しくも、MOX
裁判第2回口頭弁論当日に起きた福島原発
事故。佐賀地裁はこのニュースに騒然とし
ていたことを鮮明に覚えています。

原発事故の恐ろしさ、計り知れない自然
界への犠牲、将来にわたる人々の健康と生
命に悪影響は不可避だと突きつけられまし
た。国の事故対応は加害者を救済し、罪な
き住民切り捨てという非道な事をしていま
す。事故によって引き起こされた甚大な被
害と犠牲を前にして、あろうことか再稼働、
稼働期間延長、新增設、そして老朽原発を
動かすという信じがたい事を平然と押し通
している権力に怒りは増す。

既に“MOX裁判と運転差止仮処分”の2
つは終結。あと2つの国と九電への裁判に、
今年3月12日佐賀地裁は再び不当判決。「原
子力規制委員会の審査や判断に、看過しが
たい過誤や欠落があるとは認められない」、
「玄海3.4号機の運転で、生命および身体
に係る具体的危険性があるとは認められな
い」と、国と九電の主張を鵜呑みにし、地

震のばらつき問題、地震動過小評価、火山、
配管、重大事故対策のすべての争点におい
て、「規制委の審査は専門的知見を踏まえて、
手続きも踏まえており、合理的である」
としました。また、原発から100キロ圏外
の住民を「原告適格が認められない」とし
て却下。即日控訴し今年11月10日福岡高
等裁判所で第1回口頭弁論が開かれました。
私たちは、控訴審で新たな争点として“原
子力避難計画問題”を追加申請し、控訴審
勝利をめざし闘っていきます。

玄海は使用済みMOX燃料16体が発生し
ました。九電は「使用済みMOX燃料を当
面の間プールに保管」と苦し紛れの回答を
繰り返し、乾式貯蔵施設工事と、リラッキ
ング工事を現在同時に進めています。

核のゴミ問題、原子力避難計画問題、被
ばく労働問題など、知らされていない事ば
かりの原発。これからも法廷闘争と運動で
わかった事実を伝える活動を続けながら、
全国の皆さんと連帯して1日も早い「原発
の無い社会の実現」をめざします。知った
ら理不尽なことばかり。どう考えても一刻
も早く止めなければならない原発です。

連帯メッセージ

ストップ川内原発！3.11鹿児島実行委員会 杉原 洋

集会に結集された皆さん！鹿児島から連
帯のメッセージを送ります。

鹿児島では10月18日から、九州電力川

内原発1号機の「特別点検」が始まりまし
た。「特別点検」の結果は、原発を40年以
上運転するための「延長認可申請書」に添

付しなければなりません（実用炉規則 113 条）。九電は「運転延長を申請するかどうかもまだ決まっていない」とカムフラージュしていますが、40 年で廃炉にするなら、特別点検は必要ありません。40 年を超えて原発を運転したいのは明々白々です。

九電は、特別点検は 6 カ月ほどかかると発表しており、来年 4、5 月には「運転延長申請」を提出する危険性がはっきりしてきました。

法定運転期間 40 年を超えた原発は老朽原発そのものであり、その運転延長を許すことはできません。

私たちは福島第一原発の複数炉のメルトダウンの衝撃を忘れません。ふるさとを追われ、家族がバラバラになり、広範囲の放射能汚染地域が生み出され、暮らしも生業もズタズタになりました。

その時出された原子力緊急事態宣言は 10

年たっても解除できないではありませんか。

最初にメルトダウンし、水素爆発を起こしたのは、1 号機です。1 号機は、稼働 40 年直前でした。福島原発事故では、老朽原発が真っ先に爆発したのです。

いま自公政権は、「脱炭素化」を口実に、「発電時に CO₂ を出さない原発」のキャンペーンに懸命です。発電時に CO₂ は出さなくても、放射能を出し続けているではありませんか。原発をやめても電気は足りています。

原発は、なぜ若狭湾岸や、薩摩川内という過疎地に押し付けられるのでしょうか。

「都会」の「繁栄」のために地方が犠牲になるというのは「差別」の構造そのものです。

「原発いらない！」の声を一回りも二回りも大きく作り出しましょう！

● 老朽原発 このまま廃炉！ キャンペーン期間の行動報告

(※ 実行委員会が把握している行動)

<大阪>

- ・ 8 月 20 日：枚方ヒトリデモ、第 1 回御堂筋ひとりウォーク
- ・ 10 月 26 日：「原子力の日」反原発関電本店前行動
- ・ 10 月 8 日：高槻ヒトリデモ
- ・ 11 月 2 日：第 2 回御堂筋ひとりウォーク
- ・ 11 月 7 日：釜ヶ崎ヒトリデモ、11 月 9 日：政党、労組、団体廻り 9 か所
- ・ 11 月 11 日：高槻駅歩道橋スタンディングとチラシ配布
- ・ 12 月 1 日：第 3 回御堂筋ひとりウォーク
(ヒトリデモ 6 回、スタンディング・チラシ配布 2 回、団体廻り 1 回)

<兵庫>

- ・ 11 月 8 日：政党、議員、労組、団体廻り 9 か所
- ・ 11 月 8 日：樋口英明さん講演会でアピール
(団体廻り 1 回、集会でアピール 1 回)

<奈良>

- ・ 8 月～11 月の 6 日：ロックアクションでアピールとゼッケンデモ
- ・ 8 月～11 月の 9 日と 19 日：近鉄生駒駅前スタンディングアピール
- ・ 8 月 28 日、9 月 25 日、11 月 13 日：JR 王寺駅前スタンディングアピール
- ・ 9 月 18、28 日：メガソーラ反対行動
(集会アピール・デモ 4 回、スタンディングアピール 13 回)

<京都>

- ・ 8月31日：鴨川ヒトリデモ
- ・ 9月3、10日：三条から関電ヒトリデモ
- ・ 9月19日、10月1日：市役所から関電ヒトリデモ
- ・ 11月3日：憲法集会でチラシ配布
- ・ 10月2日、11月6日、12月4日：八幡ヒトリデモ
- ・ 10月29日：洛北街宣とアメーバ各戸チラシ配布
- ・ 11月11日：関電京都支社へ申入れ行動
- ・ 11月16日：政党、労組、団体廻り5か所
(ヒトリデモ8回、集会チラシ配布数回、アメーバ各戸チラシ配布1回、申入れ行動1回、団体廻り1回)

<滋賀>

- ・ 8月28日、9月11日、10月23日、11月13日、12月4日：脱原発市民ウォーク in しが
- ・ 10月30日、11月27日：脱原発市民ウォーク in 近江八幡
- ・ 8月28日、9月11日：びわ湖ヒトリデモ
- ・ 10月6日：高島ヒトリデモとチラシ各戸配布
- ・ 10月9日：「美浜3号機差止仮処分申し立ての意義」井戸謙一弁護士講演会
- ・ 11月3日：憲法集会でチラシ折込み
- ・ 11月13日：「老朽原発そのまま廃炉」井戸弁護士講演会
- ・ 11月16日：政党、労組廻り4か所
(ヒトリデモ3回、デモ7回、講演会2回、団体廻り1回)

<福井>

- ・ 8月8日：美浜町へのアンケート結果配布行動
- ・ 10月13日：美浜町アメーバ各戸チラシ配布（美浜）
- ・ 10月25日：「美浜3号もう動かすな！現地行動」抗議集会とデモ（63人）
- ・ 11月10日：アメーバ各戸チラシ配布（高浜）
- ・ 11月17日：アメーバ各戸チラシ配布（高浜）
- ・ 11月17日：MOX燃料搬入抗議行動とデモ（30人）
- ・ 11月23日～27日：老朽原発そのまま廃炉！高浜から美浜リレーデモ、
アメーバ各戸チラシ配布も（のべ130人）
(アメーバ各戸チラシ配布4回、アンケート結果配布1回、緊急行動とデモ2回、リレーデモ5日間)

<名古屋>

- ・ 10月23日：美浜原発そのまま廃炉スタンディングアクション
- ・ 11月15日：老朽原発40年廃炉訴訟 期日（名古屋地裁）支援、報告集会でアピール
- ・ 12月5日：名古屋同時スタンディングアクション（名古屋栄ラシック西側歩道）

<岐阜>

- ・ 12月11日：さよなら原発パレード in ぎふ（12.5集会に連帯して）

<郡山>

- ・ 11月6日：「原発いらない福島の女たち」「チェルノブイリ法日本版の会」による連帯アピール行動

<岩国>

- ・ 11月22日：岩国基地反対集会で、全員でプラカードを掲げるアピール行動

関西電力/その本当の姿！

万が一にも重大事故を起こしてはならない 原発企業をめぐる闇歴史の数々！

(老朽原発うごかすな！実行委員会、原発の電気はいらない署名@関西)

◆41◆「関西電力良くし隊」からの内部告発 → <https://bit.ly/3xuJVrF>

◆2019年6月に内部告発文書が公表されるまでの経過

- ・1977～1987年…森山栄治氏が高浜町の助役を務める
- ・2018年1月…金沢国税局が高浜町の建設会社を税務調査
- ・2018年7月…関電が社内調査委員会を設置。社外委員3名、社内委員3名（人事担当役員、コンプライアンス担当役員、経営企画担当役員）により構成
- ・2018年9月…社内調査委員会の調査報告書ができる。岩根茂樹社長ら6人を社内処分としたが、報告書は公表せず。岩根茂樹社長（当時）は、報告書を受領したが、同月中に八木誠会長（同）とともに、森詳介相談役（同）に相談し、「コンプライアンス上不適切な点はあったが、違法性は認められない」などとして公表見送りを決めていた。その後の第三者委員会は、このときの3人の対応を「ガバナンス（企業統治）の機能不全を示すものであったと言わざるを得ない」と厳しく批判。
- ・2019年3月…森山氏が死去
- ・2019年3～6月…「関西電力良くし隊」から岩根社長や監査役宛に通告などの手紙。（4通を上記Webサイトに掲載）
- ・2019年6月…「関西電力良くし隊」から最終的な内部告発文書が広く各方面に送付された。以下の文書。

2019年6月8日

拝啓

突然でまことに申し訳ございませんが、国家のエネルギーを支える大きな役割と使命を担っている関西電力株式会社の原子力事業本部におきまして、40年を超える長年にわたり大きな不正が行われてきました。

この手紙は、それを内部告発するものです。

その概要といたしましては、原子力発電所の立地～決定～建設～運転・定期点検、および現在進められている再稼働に向けた安全対策工事、特定重大事故等対処施設工事等において、現在もなお、嶺南地区を主体とする地元議員、地元会社と原子力事業本部幹部との癒着構造が継続されております。

私共が最も看過できないのは、原発の建設、運転、定期点検、再稼働工事の過程で、工事費を水増し発注し、お金を地元有力者、及び国会議員、県会議員、市長、町長等へ還流させるとともに、原子力事業本部幹部職員が現金（億単位）を受け取っていたことでもあります。

そして、この水増し発注工事費は、電気料金に加算・計上されていたということです。このことに対して、私どもは、岩根社長、及び監査役全員に、不正に関与した幹部

の退陣と人心の一新を、書面にて求めました。しかしながら、原子力事業本部で開催された調査（コンプライアンス）委員会は、過去・現状の把握と隠蔽工作の作戦会議体と化しました。来る 6 月 21 日に開催される予定の株主総会資料によりますと、私共の訴えは全く無視され、コーポレートガバナンスは、全く機能していない、期待できない組織になっていることを確信いたしました。

この巨悪は、私共のような小さな声では排除できない、関西電力の再生は不可能であると考え、相応の社会的な力、影響力をお持ちの皆様方に、国政調査などの更なる調査を通じて原子力行政にメスを入れていただきたく、筆を執った次第でございます。

一昨年、吉田開発（森山先生）脱税発覚に端を発する一連の捜査過程で、関電幹部が受け取った現金の吉田開発への返納、修正申告等、事実の公的な記録は残っているはずですが、時効などの問題もあろうかと思いますが、「一旦受取った公金（電気料金）ではあるが、やばくなったので返す。」の論理が法的にも社会倫理上も通用するのであれば、もはや我が国は法治国家ではありません。

国税局と地検特捜とを巻き込み、隠ぺい工作がなされたのは明確な事実であります。

強力な国政調査権を持って真実を明確にしてください。

私共が考える問題人物のリストを以下に示します。

【問題と考える関西電力・原子力事業本部の幹部】

- ・八木会長
- ・豊松副社長（原子力事業本部長）
- ・森中常務（原子力事業本部長代理）
- ・右城常務（地域共生本部長）
- ・大塚副事業本部長
- ・鈴木副事業本部長
- ・その他 水増し発注を指揮・遂行した副事業本部長諸氏

なお、本件（同封資料）は、以下の皆様方にもお送りしております。
どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

関西電力良くし隊一同

【情報の公表先】

- ・松井大阪市長、大阪市会議長
- ・神戸市長
- ・橋下 徹氏
- ・福井新聞
- ・朝日新聞
- ・立憲民主党～国政調査権の発動
- ・日本共産党～国政調査権の発動
- ・福井から原発を止める裁判の会 他
- ・テレビ朝日
- ・朝日放送
- ・TBS
- ・金沢国税局
- ・大阪地検特捜部

敬具

● 集会アピール (案)

原発のない、人の命と尊厳が大切にされる社会を実現しよう！

福島原発事故は、原発が一旦重大事故を起こせば、人々の生活を根底から奪い去ることを、大きな犠牲の上に教えました。それでも、関電と政府は、運転開始後 45 年を超える、危険極まりない老朽原発・高浜 1、2 号機、美浜 3 号機の運転を画策しています。

私たちは、以下の理由により、老朽原発廃炉、原発全廃を訴えます。

- ① 原発を動かせば、何万年もの保管を要する負の遺産・使用済み核燃料を生み出しますが、その処理・処分法はなく、中間貯蔵すら引き受ける場所がありません。
- ② 政府や自治体は、私企業である電力会社が運転する原発の重大事故を想定した避難訓練を、血税を使って行っていますが、それは、原発は重大事故を起こしかねないことを政府や自治体が認めているからです。ただし、その「避難訓練」も、僅かの人数による僅かの期間だけの訓練で、「避難訓練を行った」とするアリバイ作りに過ぎません。原発過酷事故時の避難は、訓練ができないほど深刻で困難なのです。
- ③ 関電の原発に関して、各種のトラブルが頻繁に発生、発覚しています。

最近では、1 昨年 10 月および昨年 11 月に高浜 4 号機で、昨年 2 月に高浜 3 号機で蒸気発生器伝熱管の損傷・減肉が発覚しました。去る 6 月に再稼働した老朽原発・美浜 3 号機でも、7 月 2 日に、緊急時に蒸気発生器に給水する補助給水ポンプのフィルターに鉄さびが詰まるトラブル、10 月 6 日には、非常用ディーゼル発電機が緊急停止するトラブルが発生しています。7 月に再稼働した大飯 3 号機でも、8 月 4 日、復水器に海水を送る配管が腐食し、直径 4 cm の穴が開いていました。

このような数々の配管トラブルは、若狭の原発の配管は相当危険な状況にあることを示します。老朽原発の運転など、もってのほかです。

- ④ 若狭の原発の耐震性は疑問です。例えば、活断層の巣の中にある美浜 3 号機の耐震性の評価にあたって、震源が近くにあることの配慮はなく、地盤変位に対する考察もありません。また、地震が繰り返された場合の考慮が不十分です。さらに、美浜 3 号機の基準地震動の評価は、405 ガルから 993 ガルへと増大していますが、それに見合っただけで原発の耐震性が強化されているとは言えません。
- ⑤ 原発電力のコストは上限を試算できないほど高額です。去る 7 月に試算された 2030 年の 1 キロワット時あたりの発電コストは、原発では「11 円台後半以上」で、太陽光や陸上風力などに比べて、原発の優位性は否定されています。なお、原発コストの試算額には上限がありません。「事故処理費用が見込みづらい」ためです。使用済み核燃料や放射性廃棄物の処理・保管費を含めれば、原発の発電コストは膨大になります。
- ⑥ 関電は、老朽原発の再稼働を巡って、立地自治体に同意を要請し、苦悩の選択を迫りましたが、福井県知事が同意を表明した直後に、高浜 1、2 号機の再稼働断念を発表しました。このように、関電は、自社の都合のみで、人々を混乱に陥れています。このことと、一昨年来の原発マネー不祥事、使用済み核燃料中間貯蔵地探しに関わる再三の約束違反を考えあわせると、関電は、企業倫理に欠け、何の成算もなく約束し、それを平気で反古にする企業と言わざるを得ません。

以上のように、原発は、使用済み核燃料の蓄積、重大事故時の避難の困難さ、トラブルの多さ、耐震性の低さ、発電コストの高さ、電力会社の企業倫理の低さ、いずれの面からも、稼働を容認できる装置ではあ

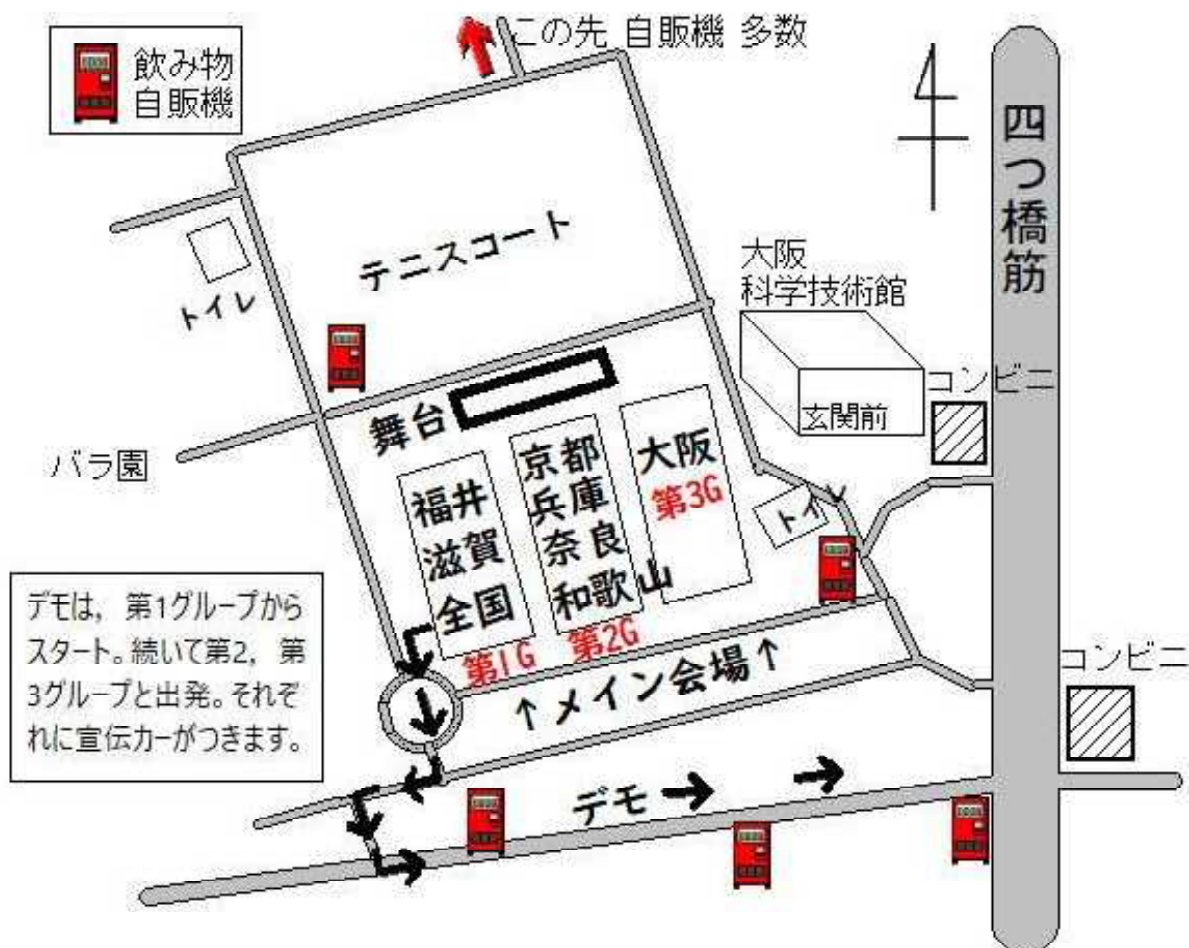
りません。原発は万が一にも重大事故を起こしてはならない装置です。

老朽原発を廃止に追い込み、それを突破口に、原発のない、人の命と尊厳が大切にされる社会を実現しましょう！

2021年12月5日

「老朽原発このまま廃炉！大集会inおおさか」参加者一同

●会場とデモの案内



老朽原発うごかすな！実行委員会

連絡先：木原壯林（電話 090-1965-7102）

2021年12月5日